

外縁付鈕 1 式 縦型流水文 同範 2 鐸

「外縁付鈕 1 式」 縦型流水文 同範 2 鐸

○ (伝) 近江国 伝滋賀県出土 辰馬 4 0 7 鐸

○ (伝) 大和国 伝奈良県出土 辰馬 4 1 4 鐸

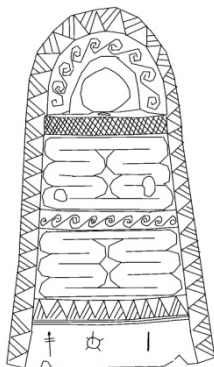
☆ (伝) 近江国 辰馬 4 0 7 鐸 辰馬考古資料館蔵

外縁付鈕 1 式 縦型流水文 2 区画 3 対耳 高さ 3 1 . 7 c m

☆ (伝) 大和国 辰馬 4 1 4 鐸 辰馬考古資料館蔵

外縁付鈕 1 式 縦型流水文 2 区画 3 対耳 高さ 3 2 . 9 c m

A 面



観察想像スケッチ

鈕部分 外縁部 鋸歯文 L R 変換なし

菱環外 連続渦文 菱環内 無文であろう

流水文 6 c 2 x 縦型流水文の基本形 上下区同じ

6 c 6 x は横型流水文の基本となるのと対照的

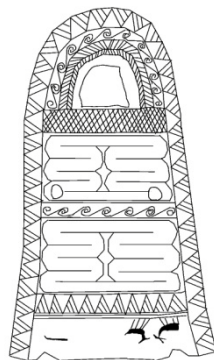
身の第一横帯の斜格子文があることが縦型の必須となる

ここが 見た目にすぐわかる 縦横の違いです

横帯 連続渦文

下界線 3 条

B 面



鈕部分 外縁部 鋸歯文 鈕部 R 緒部 L

菱環外 連続渦文 菱環内 綾杉文・方向は不明

横帯 2 鐸とも確認ができない たぶん連続渦文であろう

A B 面ともに下界線下に絵画あり

A 面は トンボ スッポン

B 面は 鹿と不明

難波洋三氏は この 2 鐸を 3 対耳としています

痕跡を拡大した画像が見たいです